

「みんなでつくろう 市民トーク」開催結果（牧之原地区）

1 日時等

- (1) 日 時 令和元年7月8日（月） 午後7時00分～午後8時50分
- (2) 会 場 牧之原市コミュニティセンター
- (3) 内 容 市長による市政情報、地区が希望する説明、質問表、意見交換
- (4) 参加人数 77人



2 地区の希望する市政内容について説明（19:47-20:13）

本題に入る前に昨年の市民トークの成果として、行政へお礼申し上げます。

1点目は水呑地域の未整備の歩道について、建設課と水嶋前相良牧之原区長のご努力のおかげで、地権者全員から建設の同意が得られ、今後は2年を目途とし県へ事業着手準備制度の申請になると思われまます。榛原相良両牧之原区にとって長年の懸案事項がほぼ解決されそうだということで、引き続きご支援をお願いします。

2点目、老人クラブの会議などへの移動手段として、公用車を利用させていただけないかと要望したところ、5月22日の勝間田地区の老人連合大会において、民間のバスを借り上げ牧之原地区・勝間田地区の送迎をしていただきました。職員にすれば新しいことに挑戦することは相当なエネルギーが必要となりますが、市長がよく言われる言葉「できない理由を考えるより、できる理由を考える」を市民のため実践してくれました。試行段階かもしれませんが、改革に着手していただけたことに感謝します。

3点目、矢崎の横断歩道の廃止をお願いしましたが、その後、駐在所近くの手押し信号機を横断歩道に接するよう、要望書と区役員などの同意書を提出しました。これに対し、市でも同意書を添付し牧之原署へ提出、牧之原署から県警へ上げていただき、令和2年度の決算事案となりました。現在、県警に下駄を預けてありますが、区の要望を真摯に受け止めていただいたことに感謝します。

(1) 高台開発における道路整備について

高台開発の事業計画が進展しているなか、I C 近辺 473 号線バイパスの工事工程が全く見えてきません。本来なら高台開発に先行または並行した取り組みが望ましいと思いますが、県の工事のため、早期実現はよほどの政治圧力でもない限り困難と思われまます。

バイパス工事計画の図面では東名に橋を架け、開発エリア内の道路予定地と沢水加 I C を掘り下げて連結し、沢水加 I C の信号を撤去する構想のようですが、この計画では工事期間が長引き、工事費も相当かかると思います。

そこで開発エリア内の道路予定地を市に払い下げてもらいエリア内の有効活用と、国道は現状維持をしながら一部を拡幅し、開発エリアへの出入り口の確保に努める案はいかがでしょうか。あるいは県が予定通りというなら、建設予定道路から直接開発エリアに出入りできるよう計画の変更を要望することは出来ないでしょうか。

県のバイパス建設計画より市の高台開発計画の方が後出しですが、あくまでも市のビジョンと利便性を追求していただき、「開発地域を含めた牧之原台地での交通事故や渋滞がないように」、「通学路の安全確保と生活道路に悪影響を及ぼさないように」というのが牧之原区民の思いですので、開発エリア周辺の道路整備案があるようでしたらイメージ図で構いませんのでお示しいただき、ないようでしたら道路整備計画についてお考えいただくよう要望します。

道路とは別ですが、先の開発地域への公共施設などの整備に関するアンケート調査で、「医療施設の設置」が男女とも年代を問わず 1 位でした。医療施設の誘致は簡単なことではありませんが、この件につきましても格段のご配慮をお願いします。

【回答：杉本市長】

現在舗装されているところは、10 何年前に県が買い上げてそのままになっています。将来は新牧之原 I C を作り、現道の 473 号バイパスを高架で渡り、ノンストップで国一バイパスまで行く計画です。

これはバブル時代に計画された道路で、人口減少社会が進んでいく中で、県もいつできるかを示してくれない状況です。高台開発の中で、賑わい施設として常設の建物はできないかもしれませんが、有効的に使わせてもらえないかと協議をしています。

国道 473 号バイパスの相良牧之原 I C から沢水加 I C 区間について、県からいつ工事をするかは未定と聞いています。担当者レベルでは、周辺道路の交通量が増えたら開始と聞いていますが、県のバイパス計画の変更については聞いていないため、これまで通りの計画で進められると思われまます。

現在、北に向かって工事していて、国一バイパスに繋がるまであと 4 年かか

ると言います。その後、国一バイパスから新東名の金谷 I C まで繋げると牧之原から 10 分程で着くようになります。当初は事業費が 8 億や 10 億と言われていましたが現在はもっとかかるかもしれません。

高台開発をやる時に、エリア内の道路予定地を使用しないのであれば、開発区域に入れさせてほしいとお願いしていますが、県では道路もやらないが、払い下げもしないという現状です。今からここを工事すると、非常に難工事になるのではないかと思います。道路を止めて工事することができないため、迂回路を相当外側に回して作らないと交差点工事ができません。

高台開発地のメインの入り口は、現在のミニストップのところですが、将来道路ができると渡れなくなってしまうので、まるわモータースのところから通りを広げて対応するようになります。

現在、バイパスの途中に矢崎方面に行く Y 字交差点がありますが、そこにバイパス I C の出口ができます。渋滞しないように右折レーンを設けたり、中の道路整備をしっかりと、大曲からの道路を使って開発することになります。中身を詰めていく中で、できるだけ渋滞が発生しないよう対策していきます。

医療施設誘致の件ですが、皆さんからいただいた「公共施設アンケート」の回答の中でも、医療施設の要望が一番多かったです。現在、大和ハウス工業と打ち合わせをしていますが、市としては大型商業施設に医療機関を誘致したいと思っています。

高台開発とセットにすれば魅力的なところだと思いますし、市内の医療関係者も興味を示している方がいます。市内に新たな病院や診療所を開設する医師や医療法人に対して、開設資金の一部を最大 6,000 万円助成する制度があるので、この制度も PR しながら、引き続き積極的に誘致に取り組んでいきます。

いずれにしても 473 号バイパスの新牧之原 I C については、今後、県に対しては、早期着工・渋滞解消を含めて、現状の土地の有効に活用することを要望していきます。

(2) 矢崎ものづくりセンター要因の交通渋滞対応策について

矢崎の問題は毎年「市民トーク」の課題として挙げていますが、牧之原区としてもここ数年、矢崎との年末の意見交換会にて具体的に厳しく要望を出しています。

例として、去年は社員退社時の渋滞緩和策として矢崎西側駐車場と養鶏場のある信号機設置の道路から勝間田方面に直進車があるため、勝間田方面から金谷方面への右折車が渋滞。同信号機の駐車場から金谷方面へ左折車が割り込み侵入をするため、中原 3 号線から金谷方面への直進車が信号で渋滞。これの解消策として、①勝間田方面への直進車をなくす。②現在ある横断歩道南側の車両出入り口を横断歩道より北側に左折車専用出口を作れば渋滞がかなり緩和す

る旨申し入れました。

②の横断歩道の北側出口については既に検討しているとの回答がありましたので期待していましたが、根本的な朝夕の渋滞解消にはならないとのことで保留状態です。5月の定例区会にて矢崎代表の評議員に、執行権限のある本部役員を連れてくるように強く求めたところですが、牧之原区単独では前に進みません。行政・区・矢崎の三者協議で前進を図り、少しでも区民と矢崎の共存体制が図れるよう、行政の参加をご検討ください。

という当初の質問でしたが、②の横断歩道の北側出口の件、6月の定例会にて矢崎の評議委員から「再度本部へ要請したところ、北側出口と国道473号線（西側）に出口を設ける」ということでした。8月のお盆休みに工事に入る計画だと聞きました。最終的な解決方法としては、信号機の設置が認可できるかどうかですが、信号機の設置ができないことになると、最終的には横断歩道を廃止して、信号機を迂回してもらい、または矢崎単独で歩道橋を作る。これは県の管轄になると思いますが、県が1社の為には作ることがあり得ませんので矢崎に作ってもらいたいということも含めて、行政も交えて三者協議をして、改善を図っていきたいというお願いです。

【回答：杉本市長】

②については工事が進められるという事です。

①の矢崎駐車場の信号機から、勝間田へ直進するところですが、私も今来るときに思いました。信号が青になっても右折できません。矢崎の車が西側の473号バイパス方面に出るにはいいが、勝間田方面に出て行くのはまずいと思います。それならば今の出口から出てもらい、矢崎の駐車場の中で渋滞する方がいいのではと思います。

信号機についても、今の牧之原警察署長と直接話をしました。これまでの牧之原警察署交通係長は規制専門で、信号機も担当です。高橋署長には、この地域の長年の課題のため、前向きに進めてほしいとお願いしていますし、私も要望に行きたいと思っています。

それでも無理だと言われれば、物理的に歩道橋を作るか、南側の交差点に行き渡ってもらう。ただ南側の交差点まで行って渡ってもらうと、今度はまた右折車が右折できないということになります。これからは警察も含めた4者協議が必要であると思っています。

3 個人からの質問票による意見・質問 (20:13-20:50)

(1) 急発進防止装置の補助について

高齢者ドライバーによる交通事故が社会問題になっていますが、東京都では後付できる急発進防止装置を取り付けた場合、費用の9割程度を補助する方針を決めたと報道されました。牧之原市においてもこのような補助制度を検討しているのか、検討していないなら地域性を考慮し、ぜひ検討していただくよう要望します。

【回答：杉本市長】

7月5日開催の市長会でもこの話題がでました。私もこれはやらないといけないと思っています。東京23区では東京都がやるといっています。これを静岡に置き換えると静岡県がやるということです。私は県がやるべきだと思っています。各市町が競い合って貴重な税金を使うのではなく、自動車税を徴収している静岡県がやるべきです。

高齢者の交通事故は全国的な問題で、県の施策として広域的に取り組むべきです。市長会で全員の意見が合致して、県知事に対して市長会として意見書をあげます。そして東海市長会を通じで国にも要望します。

高いものだと10万円というものもあるようですが、安いものだと後付けで、3万円くらいで取り付けできるそうです。いろいろと違いがあるようですが、後付けできるものを補助できるように我々としても取り組んでいきます。

免許返納証明書の発行手続きにかかる補助は、今年度中に対応予定です。免許返納対策としての証明書の発行は、できれば4月に遡ってやりたいと考えています。議会ともしっかりと相談して、できることなら9月補正でやりたい。例え300人に1,000円助成しても30万円です。そのために思いとどまっている人がいるのなら支援し、デマンドタクシーについても、しっかり取り組んでいきたいです。

(2) 矢崎従業員の車両について

中学生が下校時に矢崎の終業時間と重なると、出てくる車（北へ向かう車）が、駐車場から出てくる際に、歩道の自転車の中学生に注意を払ってくれず、出てくる車が途切れるまで待っていることがよくあるそうです。もっと注意をしていただかないと、接触など起きては危険です。ゆずり合いの心を持っていただきたいと思います。

【回答：杉本市長】

市からも矢崎に対してしっかり申し入れをさせていただきます。

(3) 自主運行バス路線 萩間線の路線変更の要望

子どもたちの登下校時の安全確保は町内会・保護者会・ボランティア軒先運動などで努力しているところですが、最近交通量の増加によりどの地区でも危

険箇所が散見される状態です。

現在、萩間線の路線経路はサービスエリア入り口停留所の後、ゴルフ場の相良カントリー前を経由して東萩間停留所へと運行しています。牧之原南町内会・大久保地域としては、市道壺町田北線と市道大倉壺町田線が全線開通しましたので、こちらにルートを変更してもらえれば、登下校時の一番危険な箇所をバス通学することにより回避できるならと考えます。子どもたちの安全確保のため、静岡鉄道に路線変更を要望していただけないでしょうか。

【回答：横山副市長】

市としても、この道路が開通したことから検討に入っています。経路が変わると全長で1.6 km長くなり、負担金の問題があります。この道路は、牧之原市・菊川市市・島田市が合同で自主運行バスを走らせているため、各市町へ話をしなければなりません。1.6 km長くなることで時間が変わるので、ジャストラインとの調整も必要です。

また現在、上がったところの水呑に停留所を作ったらどうだろうかと考えており、これについては土木事務所との協議が必要です。私たちもなるべく早く調整をして、できれば来年度から実施出来ればと思っています。

(4) 同報無線について

現在、牧南あたりまで工事が進んでいると思いますが、いつくらいまでに牧北まで工事が完了しますか。

【回答：糸田防災課長】

同報無線については、テレビが地デジ化でアナログ電波が使えなくなるということで、同報無線もアナログ電波を使っているためデジタル化するものです。工事については昨年からはじめ、3年間で老朽化したパンザマスト（柱）も合わせて交換するというので、工事を順次行っています。

牧北については、今の消防館のところのコンクリート柱を交換し、もっと高い位置に高性能スピーカーを取り付け、より皆さんに届く同報無線に変えていきます。消防館の所は、早ければ来月やりたいと思っています。

今年度中にはすべてのパンザマストの更新をする予定です。更新する時には反回覧など周知を図ってから行いますので、よろしくお願いします。

【再質問】

私はコミュニティセンターの裏ですが、現在、同報無線が全く聞こえません。サイレンやチャイムが鳴ってから、窓を開けても聞こえない状況です。デジタル化というのは本当に聞こえるようになりますか。

【回答：糸田防災課長】

スピーカーから流れる音声はどこまで届くか計算し、図面上に落としながら実施しています。現在、牧北の消防館に付いているスピーカーは位置が低いです。今度はスリムタイプで遠くまで音が飛ぶスピーカーにし、高さも上げますので、しっかり届くと思います。また音声だけではなく文字で残るように、LINEやメールの配信も行います。

【再質問】

この近隣は高齢者や一人暮らしの人が増えています。そういう方はスマートフォンを持っていなかったり、携帯電話を持っていても操作が分からず、電話の発着信しかできない方が多いです。

ここは本当に安全な地域で土砂崩れもなく水害もなく、津波も来ないので大丈夫ですが、せっかくお金をかけて同報無線を作るのであれば、有効に皆さんに伝わった方が良くと思います。相良地区は各家庭に受信機がありますが、大変聞こえがいいので、榛原地区も受信機があればとずっと思っていました、相良の受信機は廃止になりますか。

【回答：糸田防災課長】

相良地区の戸別受信機は平成2、3年頃に配備しました。寿命が7年程度なので、すでに28年経っているということで老朽化し、故障も多くあります。

こうした防災機器は高額で、1台7～10万円ぐらいします。現在、市内15,000世帯あるので、1戸あたり10万円で計算すると、それだけで15億円かかってしまいます。それよりも皆さんのスマートフォンや携帯電話に、後で残るものでお知らせするという考えています。

【近藤防災監】

高齢者で一人世帯には、同報無線の新しい機器を分けることも考えています。

【杉本市長】

私の家も、今まで笠原さんと牧南茶農協の2か所にスピーカーがあり、ハウリングを起こしてよく聞こえませんでした。今度は1つになりましたが、とてもクリアに良い音で聞こえるようになりました。この地域についても、おそらく良く聞こえるようになると思います。

(5) 中原断層とガス管理設について、榛原総合病院の対応について

この辺りには中原断層というものがあるらしいと昔から聞きます。中部電力が浜岡原発から日坂変電所へ電気を送る高圧線の鉄塔を設置する時にも、断層があるかどうかボーリングして、確実にないということでそこに建てたという

ことを聞きました。実際にこの断層がなければいいですが、あった場合には、どの辺にどのくらいの規模であるのか。また静岡パイプラインが断層に絡んでいるのか。近い将来に予想されている東海・東南海地震に対して、ガス管の安全性など心配しています。

特に中原3号線は小中学生の通学路でもあります。もし最悪の場合は、ガス漏れ・ガス爆発があった時は、どんなものなのか。想像がつかないような被害が起こるのではないかと感じています。分かる範囲で断層があるのであればこの辺ということをお教えいただければありがたいです。

【回答：近藤防災監】

牧之原台地という場所は、地質学者にとって古くから研究の対象となっています。1990年代ぐらいの文献によると、牧之原IC周辺：仁王辻あたりに3条ほどの断層が記録されています。その後研究が進み、2010年くらいには副次的な断層ではないかと評価されています。活断層と副次的な断層の違いですが、活断層は自分のところに歪を貯め、何千年か何万年に一度動いて地震を起こすような活断層のことを意味します。副次的な断層というのは、いわゆる「お付き合い断層」という言い方をしますが、その持っているエネルギーがだいぶ小さいということです。

また静岡ガスに確認したところ、ここでは高圧管という非常に強度が高い管を使っているそうです。同様の管を使っているところは、阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震の時も被害がなかったそうです。

一応、安全・安心だと思っていいと思うのですが、世の中には絶対はありませんし、全ての断層を把握しているわけではありません。平成19年の中越沖地震は未知の断層で起きました。また去年に大阪で起きた地震も、上町断層帯か高槻断層帯かと言っていましたが、どちらでもなかった。皆さんが10年前に経験した8.11もそうです。世の中には絶対はないですが、今のところ仁王辻の辺りについては大丈夫そうだという評価です。

(6) 榛原病院の現状について

【回答：鈴木健康福祉部長】

榛原総合病院が医師の引き上げがあり、公営の時には医師数が約60名いました。一時期、医師が19名にまで減った状況がありました。今、榛原総合病院では平成29年4月から医師確保の専任の職員を配置しており、医師確保の成果が徐々に上がってきています。平成31年4月現在に、常勤換算ですが医師数が31名ということで、だいたい半分まで回復してきている状況です。

医師が徐々に増えてきたということもあり、一般の入院病棟のほかに平成30年5月に回復期リハビリテーション病棟を35床開設することができています。

今まで脳外科や大腿部骨折などで回復期のリハビリが必要な方は、市外の病院でリハビリを受けていただいております。現在は、市外の病院に入院して状態が落ち着いた方が、榛原総合病院へ転院をしてリハビリを受けられることができるようになってきました。

また熱中症や冬場にインフルエンザが流行するというところで、内科病棟が満床の時期がここ数年続いていましたが、今年6月から内科病棟を新たに開設して患者数が増える時期に対応することができてきています。

外来については、整形外科・小児科・内臓リュウマチ膠原病・脳神経外科・皮膚科が外来日数を少し増やしています。救急については、救急担当医が週3日ですが、きちんと専任の救急外来を担当する医師が配置できましたので、こういった配置で救急をきちんと受け入れるということが、以前よりできてきていると思います。

現在は在宅医療が必要になってきていますが、これまでは「みなし指定」という形で行って来ました。4月からは、病院から独立した訪問看護ステーションを開設し、市内の開業医の先生と連携しながら、在宅医療を担当し、皆さんの在宅介護の支援もできるようになってきました。

小児科については、平日昼間の外来以外に、夕方診療を月・火・木・金の週4日行っています。夜間救急も火曜日と金曜日に小児科の医師が対応しています。小児科の救急を受入れてくれるところがなかなか無いということで、榛原総合病院で日数を増やして対応しているという状況です。

開業医が休診となる日曜日の午前中も、榛原総合病院で救急対応を受けていますので、お子さんが急に受診が必要な時はご利用いただけたらと思います。

(7) 避難情報の出し方について

最近、内閣府から水害土砂災害の防災の情報の伝え方が変わるということで、先日も警報レベル4の報道が色々あったと思います。市の方で、具体的にこれまでと出し方がどう変わるのか教えていただきたい。

また避難所の開設・避難所の広さなど町内会で持っているものが非常に大事になります。前日の熊本の時にも、避難所に入れなくて帰されるという事例もありましたので、そういった点も含めて教えていただければと思います。

【回答：近藤防災監】

基本的には考え方は変わりません。ただレベル4という言い方になっただけです。避難勧告と避難指示と言われても、どちらが重要なのか分からない方が多いと思います。そのため5段階中4になったら皆さん逃げてくださいというものだとご理解ください。

今は梅雨時なので我々も雨の降り方を見ながら、警報レベルを出しています。しかし台風になると雨風が強くなり、なおかつ上陸する時期が見えてくるので、

あらかじめ危ないと思ったときは、気象庁が1の時でも牧之原市は3を出すことがあります。明け方に危険な状況になるのならば、前日の明るいうちに避難を開始してほしいからです。去年も何回か出しています。

避難所については、去年は高齢者避難開始・避難準備を4回出しました。そのうち最初の6月には体育館で主に開設しました。しかし7、8月はもの凄く暑く災害的な暑さで、エアコンのある避難所を開設しました。当然、そういった場所は狭いです。鹿児島の場合だと、全市60万人に対して避難勧告を出しました。そうすると皆が避難所に押し寄せて一杯になってしまった。

市のホームページを見ていただくとわかりますが、緊急情報がなくてもハザードマップのリンクが貼ってあります。ハザードマップは配布をしてから既に5年ほど経過していますので、年度内に新しいものを配布します。とりあえず今持っている方はそれをご覧ください、持っていない方はインターネットで見させていただきます。

洪水にせよ、土砂災害にせよ自分の家が危ないかどうかということを調べてください。大雨が近づいてきている、100mm、200mm降るから、危ないから関係する方は避難してくださいと言います。ハザードマップを見て自分のところは洪水が危ないと思ったら逃げていただく。土砂災害が危ないと思ったら、その方が逃げていただくという形にさせていただくのが一番ですので、ぜひご覧になっていただきたいです。もし持ってなくてインターネットもご覧になれない方は、庁舎にお越しいただければ見ることはできますので、ぜひチェックしていただきたいと思います。

去年は停電もしました。風が強く暴風が吹き停電の恐れがあるときは、避難準備を出しました。一人では心配だという方はぜひ避難していただければと思います。どうしても不足することがあれば、小学校の体育館を開くなど、次の手を打つ必要があると思っています。